

## 袖ヶ浦市郷土博物館

かつて見た袖ヶ浦の海 ―海から見つめる袖ヶ浦の100年―

開催期間：2021年10月2日（土）～2021年12月12日（日）



### 【企画展の目標】

- 袖ヶ浦に広がる海における自然環境や人々の生活の変遷をたどることで、海と人々が歩んできた100年間を今に伝えます。展示を通じて、現在失われつつある袖ヶ浦の人々と海とのつながりを思い起こし、これからの海との向き合い方を考えるきっかけとなるような展示とします。
- 担当学芸員による展示解説会、かつての海の姿をとどめる盤洲干潟における自然観察会、東京湾の環境と漁業の関わりと変化を学ぶ講演会、袖ヶ浦で実際に行われていた方法による海苔すき体験会を開催します。自然や産業、当時の人々の生活等多様な視点から袖ヶ浦の海への理解を深めます。
- 展示や関連事業を通じて、過去に漁業を行っていた方や新たに居住した方など様々な世代の方々が交流し、海の情報が集まり、伝えられていく場を目指します。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

# 1. 企画展示の内容

- 開催期間：2021年10月2日（土）～2021年12月12日（日）
- 開催場所：袖ヶ浦市郷土博物館 2階 特別展示室
- 入場者数：5,641人



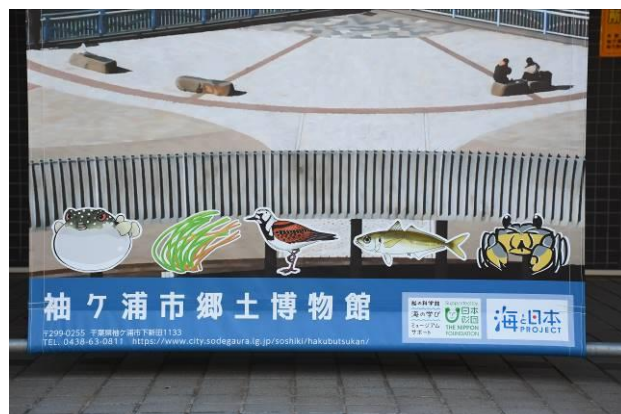
袖ヶ浦市郷土博物館 外観



企画展会場 入口



博物館入口のタイトルシート



博物館入口のタイトルシート



※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



### プロローグ「海への入り口」

エントランス展示として、これから海を知るうえで重要であり、最も親しみやすい要素の1つである生き物にかかわる展示をしています。江戸時代から釣り魚として親しまれているマハゼや、干潟で気軽に観察できるカニの仲間、そして東京湾で特徴的な鳥などの生体やはく製の展示から、東京湾の生き物とそれを通じた海の楽しみ方を学びます。



### 第1章「袖ヶ浦の面する海・東京湾」

袖ヶ浦の面する海「東京湾」について成り立ちや、その原風景である干潟の地形や多様な生き物を育むメカニズムについて、干潟の地形を模したフロアシートや生き物の標本等を交えて紹介することで、かつての袖ヶ浦の海の豊かさを学びます。



## 第2章「海が近くにあったころ」

干潟という特殊な環境の中で行われていた様々な漁業や、1920年代に本格的に始まり戦後一大産業まで成長した海苔養殖、そして多くの人々にぎわった簀立や潮干狩りなどの観光漁業を通じて、海に暮らす人々の生活について学びます。船や網などのそれぞれの漁業で実際に使われていた漁具を展示するほか、袖ヶ浦で発見されて全国に広まったノリの品種「ナラウスサビノリ」についても詳しく紹介しています。



## 第3章「激変の時代 一戦後の開発と様変わりした海一」

戦後に食糧増産のために行われた長浦干拓、それに反対した漁業者の運動と漁業権の放棄、そして開発による海的环境変化について、当時の漁業協同組合の文書や開発の事業紹介、生き物のはく製などを使って解説します。袖ヶ浦の海が現在の姿になった理由と経緯、そして人々の葛藤など、海の開発がもたらした様々な側面について学びます。



## コラム展示「ちょっと変わった海の話」

展示の調査中に発見した少し変わった話題として、近隣で行われていた潜水漁と袖ヶ浦で見つかった南方のカニ、そして工場付近に訪れたアカウミガメについて展示しています。東京湾の豊かさと生き物の多様さとともに、開発が生き物にもたらす影響について学びます。※アカウミガメ剥製：東京海洋大学マリンサイエンスミュージアム蔵



#### 第4章「海の未来を考える ー私たちにできることー」

袖ヶ浦のすぐ近くに存在する東京湾最大の自然干潟「盤洲干潟」の環境と生き物、その保全にかかわる活動についての写真を展示しています。工場地帯の隣に残された自然本来の姿と保全の取り組みから海との共生の在り方を学ぶほか、普段の生活の中で海とのかかわりを持つための方法を考えます。

#### 【来館者の声】

- のりのことなどの展示全体がわかりやすかった。渡り鳥や魚類の種類もよくわかった。
- 子供の頃の袖ヶ浦の海が思い出となった展示
- 昔から今までさまざまな形で海の恩恵をうけていること、これからどう保全するか、個人としてできることは何かについて考えたい。
- 今とは違う、かつての袖ヶ浦の海の姿、関わり方、人々のなりわい、かつての姿を忘れずに、今後どう向き合っていくのか考えさせられた。解説や資料が充実していて、とても見応えがありました。
- 自然を守りたいという思いと、より豊かで便利な生活がしたいと思う心。どちらも大切な事なので、自然と発展のバランスを見極める事が必要なのだと思う。
- 自分も海辺で育ったので、ノリ養殖（ノリをほしているところ）を間近で見えていました。とてもなつかしかったです。カキの養殖については初めて知りました。
- 郷土の歴史を知ることの重要性を実感した。世界史や日本史で全体のことを学ぶことも大切だが、地元地域の歴史を教育することが第一だと痛感した。

## 2. 関連事業の内容

### ■ 展示解説会

【開催日時】 2021年10月9日(土)

11:00 ~ 11:40、13:30 ~ 14:10

2021年11月14日(日)

11:00 ~ 12:00、13:30 ~ 14:30

【開催場所】 袖ヶ浦市郷土博物館2階 特別展示室

【参加者数】 計44名

【目標・内容】

- 担当学芸員による展示解説により、来館者が展示についての理解を深めるほか、直接質問等をする機会となり、主体的な学びをサポートします。



展示の解説のほか、漁具の使い方や生き物の特徴、ナラワスサビノリ発見の経緯等、展示では紹介しきれない内容や展示のポイントを紹介し、来館者が袖ヶ浦の海についてより深く学ぶことができる解説会としました。かつて漁業を行っていた方や袖ヶ浦の食文化について学んでいる方も参加され、当時の経験を交えた貴重な話を伺うことができ、参加者同士の交流が行われてより実りのある内容となりました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



展示解説会以外にも、体験学習で当館を訪れた近隣市の小学生にも展示解説を行いました。海に行ったことがない子どもが多く、かつての干潟の姿や海苔養殖の歴史を聞いて、その様子を想像しながら熱心に展示を見学していました。また海苔が好きな子どもも多数いて、袖ヶ浦で生まれた海苔が全国で養殖されていると聞いて驚いていました。

### 【参加者の声】

- 袖ヶ浦の海の歴史は詳しくなかったが、これからも残していくべき貴重な歴史だと思った。これは12月で終了しないで常設の展示にしてほしい。
- 葺波や久保田でも漁業がさかんにしていたことを感じた。
- 埋め立て反対があったことを知り自然の大切さを感じました。
- 係員の方が質問全てに対し判り易く説明して頂き、理解が一層深まり良かった。
- アオギス釣りの様子を当時の漁師から伺う事ができました。
- かつて袖ヶ浦の工業地帯で働いていたが、埋め立ての前に干拓があったことは知らなかった。干拓事業反対の活動が展示でわかったことは有意義でした。

## ■第 161 回袖ヶ浦学（特別展講演会）「東京湾の過去・現在・未来 —いきものと漁業の歩み—」

【開催日時】 2021 年 11 月 20 日（土） 13:30 ~ 15:00

【開催場所】 長浦おかのうえ図書館 視聴覚室

【参加者数】 34 人

【実施内容・目的】

●袖ヶ浦の歴史・民俗・自然を学ぶ地域講座「袖ヶ浦学」の一環として、特別展「かつて見た袖ヶ浦の海 —海から見つめる袖ヶ浦の 100 年—」関連講演会を開催しました。

●袖ヶ浦の面する海である東京湾をテーマとして、戦後の港湾整備や工業地帯の誘致に伴う埋め立て、海洋汚染等により、湾の生物や漁業がどのように変化したのか、なぜ変化したのかについて、干潟に生息する貝類等を例に探りました。またこれを通じて、東京湾の過去からこの先について考え、身近な場所にある海への理解を深めることを目指しました。



長浦おかのうえ図書館 視聴覚室



講師の東京海洋大学客員教授  
鳥羽 光晴先生





東京海洋大学産学・地域連携推進機構客員教授の鳥羽光晴氏を講師にお迎えして、講演会を開催しました。今回の特別展は、袖ヶ浦の海の今日に至るまでのなりわいや海の環境の変化について取り上げていますが、本講演会は海（東京湾）の環境と漁業の変化を深く掘り下げ、昨今の漁業問題も取り上げるなど、特別展の中で詳しく掘り下げられなかった部分を補完する内容となっていました。鳥羽先生は以前に千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所に勤められていたため東京湾の環境と漁業に精通しており、特に貧酸素水塊やアサリの食害防止など、東京湾の環境と漁業に係る諸問題に重点を置いた内容となっており、参加者もメモを取りながら熱心に講義へ耳を傾けていました。

### 【参加者の声】

- 今、海のゴミが問題になっているけど、自分たちにもできる海を守る活動をしたいなと思いました。
- 海、自然を守らねばと思う。
- もっと環境について真剣にとりくみたいと思った。
- 昔の海の豊かさ、自然の大切さをまた認識した。
- 過去だけでなく、現在の東京湾の漁業の姿やアサリ保護の工夫を知ることができた。
- 東京湾の生物に始まり、環境や漁業まで幅広い内容で、大変ためになり面白かった。
- 一度生物やそれが生息する環境を減らしてしまうと、水をきれいにしただけではもともといた生物は戻ってこないことを知って衝撃を受けた。今ある東京湾がどうすれば豊かな海になるか考えさせられた。

## 【事業全体のまとめ】

袖ヶ浦市の市制施行 30 周年という節目の年に、袖ヶ浦の人々から遠い存在になっている海をテーマにした展示を行うにあたって、生き物を中心とした資料の収集、過去の調査の再検証、漁業に携わった方々からのインタビューなどを行うことができて、「生き物」と「なりわい」という 2 つのテーマで充実した展示を行うことができました。実際に袖ヶ浦の海を見たことがない若い世代から、かつて漁業を行っていた世代まで幅広い方々が、展示を通じて袖ヶ浦の海について生き物や環境、民俗まで多角的に学ぶことができたようです。袖ヶ浦の近隣の干潟（盤洲干潟）の保全活動に関心を示す人や、自然と人間の生活のバランスについて考えた人など、展示をご覧になった方がこの展示をきっかけとして、海とのつながりについて様々な方面で関心を広げていったことがうかがえます。

さらに、本展示の常設展示化を望む声や、地域の歴史として海苔づくりを子どもたちに伝えたいという動きもうまれ、袖ヶ浦の海に関わる歴史を後世に伝える機運を高める効果もありました。

## 3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 東京海洋大学	講演会の講師派遣、資料借用、展示に係る調査
2. 千葉県立中央博物館	資料借用、展示に係る調査
3. 千葉県立中央博物館 分館 海の博物館	資料借用、展示に係る調査
4. 我孫子市鳥の博物館	資料借用
5. 浦安市郷土博物館	資料借用、展示に係る調査
6. 君津市漁業資料館	資料借用、展示に係る調査、関連事業協力
7. 富津埋立記念館	資料借用、展示に係る調査
8. 盤洲干潟をまもる会	資料借用、関連事業協力
9. 袖ヶ浦市中央図書館	関連展示の開催

## 4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. びびなび 11月号	特別展「かつて見た袖ヶ浦の海 ー海から見つめる袖ヶ浦の100年ー」を開催します
2. 房総ファミリア新聞 第5708号	『袖ヶ浦市郷土博物館特別展「かつて見た袖ヶ浦の海」』 10月9日
3. 新千葉新聞 第21392号	「かつて見た袖ヶ浦の海 郷土博で開催 三十周年記念特別展」 10月10日
4. 新千葉新聞 第21393号	「干潟の生き物観察会等 袖ヶ浦市郷土博物館 袖ヶ浦の海特別展」10月12日
5. 房総ファミリア新聞 第5712号	袖ヶ浦学「東京湾の過去・現在・未来 ーいきものと漁業の歩みー」11月6日
6. かずさFM	かずさどこでもラジオ 10月17日 市長のもっとメッセージ 10月29日

以上